

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道 406号 <small>ももせ もすげ</small> 百瀬～茂菅バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	長野県	
起終点	自：長野県長野市小鍋 至：長野県長野市西長野	延長	4.2km			
事業概要						
<p>一般国道406号は、長野県大町市から群馬県高崎市に至る延長約134kmの主要幹線道路である。百瀬～茂菅バイパスは、長野市西部に位置し、急峻な地形の中、狭隘な幅員、線形不良及び防災危険箇所の解消を目的とした延長4.2kmの2車線道路である。</p>						
S52年度事業化	都市計画決定 なし	S52年度用地着手	S52年度工事着手			
全体事業費	約135億円	事業進捗率	68%	供用済延長	2.6km	
計画交通量	12,000 台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.6 (残事業) 1.6	(残事業)/ (事業全体) 36 / 37 億円 事業費：34/36億円 維持管理費：1/1億円	(残事業)/ (事業全体) 58 / 58 億円 走行時間短縮便益：55/55億円 走行費用減少便益：3/3億円 交通事故減少便益：-1/-1億円	平成15年		
事業の効果等						
<p>安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 災害への備え（現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは掛替えの必要のある老朽橋梁における規制等が解消される）（他5項目に該当）</p>						
関係する地方公共団体等の意見						
一般国道406号整備促進期成同盟会より早期完成の要望（平成15年10月10日）を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
現在までに2.6km供用しているが、落石危険箇所等交通難所を2箇所解消している。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
供用延長L=2.6km 残事業は、トンネル1式、橋梁一橋等及び道路改築						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
今後は、橋梁工及びトンネル工事を推進し、残り区間の早期供用を目指す。						
施設の構造や工法の変更等						
歩道幅員の見直しにより橋梁、トンネル等大型構造物のコスト縮減を図っている。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、残区間を整備することにより、当初の目的が達成されと考えられる。					
事業概要図						

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。